

1 日本にとっての同地域の重要性

● エネルギー資源の宝庫、我が国シーレーンに位置し、物流の要衝

- 日本の原油輸入の約9割、LNG（液化天然ガス）輸入の約2割
- ホルムズ海峡、スエズ運河は世界の物流の要衝



- 中東における暴力的過激主義は日本の安全保障にも影響
- アフガニスタンの安定は地域の安定のみならず、テロと闘う国際社会全体の安全確保にも不可欠
- 責任あるグローバルプレイヤーの役割（積極的平和主義の実践）

中東地域の平和と安定は、日本の安定と安全・繁栄に直結。

2 実績と成果

- 2016年G7伊勢志摩サミットにおいて、2016年から18年の3年間で、約2万人の人材育成を含む総額約60億ドルの**中東地域安定化のための包括支援**を表明し、着実に実施。

中東地域への安定化支援

- 経済開発・社会安定化支援等
- 社会不安定化の背景にある若年層失業、地域間格差といった問題に対処するため、公共部門改革、産業振興等を通じた雇用創出、農村開発、教育の質の向上等に資する人材を3年間で約2万人育成。

JICA専門家等の人道支援チームの派遣

- JICA専門家等の人道支援チームを難民キャンプや受入国・社会に派遣し、人材育成や地域開発等に直接貢献。3年間で約50名派遣。

シリア人留学生の受け入れ

- シリア危機により就学機会を奪われたシリア人の若者に教育の機会を提供するために、JICAの技術協力等を活用し5年間で**最大150名**のシリア人留学生を受け入れ。

● 日本企業の中東進出にも貢献する支援

イラク・バスラ製油所改良計画
エジプト・ボルグ・エル・アラブ国際空港拡張計画
トルコ・ボスポラス海峡横断地下鉄整備計画 等

- 親日感情の醸成
- 日本技術への高い評価
- 国際社会からの高い評価



バスラ製油所



ボスポラス海峡横断地下鉄



ボルグ・エル・アラブ国際空港（完成予想図）

● アフガニスタン支援

2024年までの「変革の10年」を見据え、アフガニスタンの治安・開発面での自立に向け、主要ドナーとして、2001年以降、総額約69億ドルの支援を実施。

2020年11月アフガニスタンに関するジュネーブ会合では、アフガニスタン政府自身の改革努力を前提に、過去4年間と同水準の支援（年1.8億ドル規模）を、2021年から2024年も維持するように努める旨表明した。

- 治安維持能力の向上：警察の能力強化等
- 開発支援：農業・農村開発、インフラ整備、教育・保健、人づくり支援等

● 中東和平（パレスチナ支援）

1993年のオスロ合意以降、パレスチナに対して総額約21億ドル以上の支援を実施

- 民生の安定・向上
- 行財政能力の強化
- 持続的な経済成長の促進



UNRWA支援閣僚級会合
（茂木大臣出席）

「平和と繁栄の回廊」構想や同構想の下での各種「観光回廊」プロジェクト、「パレスチナ開発のための東アジア協力促進会合（CEAPAD）」等、独自の取組を推進